

平成22年度第3回沖縄県がん診療連携協議会地域ネットワーク部会
5大がんクリティカルパス運用ワーキンググループ議事要旨

日時：平成22年12月15日（水） 19:00～19:30

場所：琉球大学医学部附属病院 管理棟3階 大講義室

構成員：40名

出席者：25名

平良 豊（浦添地区医師会）、喜納 美津男（那覇市医師会）、照屋 淳（医師会病院）、仲村 実和子（医師会病院）、新崎 博美（中部病院）、宮里 浩（市立病院）、宮国 孝男（市立病院）蔵下 要（浦添総合）川畑 勉（沖縄病院）、大田 守仁（豊見城中央病院）、宇良 正一郎（同仁病院）、大田 治（与那原中央）、小浜 徹明（与那原中央）、下地 光好（南部徳洲）、大嶺 靖（沖縄赤十字）、志良堂 清憲（沖縄赤十字）、下地 英明（琉大病院）、白石 祐之（琉大病院）、照屋 孝夫（琉大病院）、佐村 博範（琉大病院）、國仲 弘一（琉大病院）、新垣 久美子（琉大病院）、武富 孝子（琉大病院）、増田 昌人（琉大病院）仲本 奈々（琉大病院）

陪席者：呉屋 葉子（がんセンター）

1. 平成22年度第2回5大がん地域連携パス運用ワーキンググループ議事要旨（資料1）
平成22年度第2回5大がん地域連携パス運用ワーキンググループ議事要旨が承認された。
2. 5大がん地域連携クリティカルパス事業の申し込みについて（資料2）
新たに、専門施設に1病院・かかりつけ医に4病院が追加されたことが報告された。
3. 前立腺がん作成ワーキンググループ構成員の決定と5大がん地域連携パス運用ワーキンググループ構成員の新規追加について（資料3）
前立腺がん作成ワーキンググループ構成員が5名決定したことと、5大がん地域連携パス運用ワーキンググループに4病院（同仁病院・南部徳洲会病院・沖縄赤十字病院・与那原中央病院）の医師と地域連携室職員が新規構成員に追加されたことが報告された。
4. 地域ネットワーク部会・WG希望曜日の集計結果について（資料4）
運用WGの開催曜日のアンケートを行った。集計の結果、これまで通り水曜日となった。
5. 琉大で行った院内研修会の報告について
佐村委員より、11月29日に琉大で院内研修を行ったこと報告がされた。
医師・看護師・地域連携室職員など合わせて13人が参加。地域連携パスの概要や必要性、実際の運用の仕方などについて話したこと、運用が進まない理由について話したことが報告された。
6. 各施設での地域連携パス適用事例について
市立病院の宮里委員より、地域連携パス適用事例について報告があった。
今現在で、胃癌が2例、大腸癌が1例、乳癌が3例、合計6例のパスの適用をしているが、送り出すだけで、まだキャッチボールと言う体制は行っていない。
運用は専用のテンプレートを作り、それを医療情報の電子カルテに立ち上げられるようにしている。データの入力にはドクター映像で外来受診する際に一緒に入力するような体制を作っている。
今後、数が増えて来たら患者さんの自宅近くの、かかりつけ医に登録している施設で診て頂くようにしていきたいと報告があった。

【協議事項】

1. 地域連携パス運用の運用に関するグループ討議について（資料5）
先日、琉大病院で「5大がん地域連携クリティカルパス」の運用についてグループ討議を行った。それをもとに運用ワーキングでも稼働数が増えない理由と解決策を討議したところ、以下の意見があった。

①なぜ連携パス稼働数が増えないのか？

- ・拠点病院・準拠点病院にも入れなくて、かなりの労力も人員も必要なわりには、メリットがない
- ・院内で温度差がある。考え方を浸透させなければいけない。
- ・パスがあること自体、院内スタッフが知らない。
- ・大きいところ（東京など）が運用しないと、病院や患者さんに浸透しない。

②何をすればうまく動くのか？

- ・すべての対象疾患の患者さんにチラシを渡して、希望の患者さんに適用するのはどうか。
- ・病院のパンフレットとして患者さんに渡せば、病院スタッフにも浸透する。
- ・民間の方が、フットワークが軽いので運用しやすいのではないか。
- ・内服がなければ基本的に運用しやすい。
- ・公立病院からすぐにかかりつけ医に送り出すのではなく、2段階で行ってみてはどうか。
例えば、大学病院→専門施設→かかりつけ医
- ・私のカルテを運用していけば、自然に地域連携パスというのが広がって行くのではないか。
- ・現行のパスが使えるすべての症例に連携に乗らなくてもパスを常用していく。

2. 患者用5大がん地域連携クリティカルパスのパンフレットについて（別紙資料）

パスの普及のために、案内用パンフレットのたたき台を作成したことが報告された。
パンフレットにはパスについての説明と、連携パスの流れ、私のカルテの事が記載されている。
意見などあれば、後日伺うこととなった。

3. 専門施設へのアンケート項目（資料6）

5大がん地域連携クリティカルパスの稼働数がなかなか増えない現状を受けて、専門施設として申し込みのある施設に対して現況調査のアンケートを行うことが承認された。

4. 平成22年度5大がん地域連携クリティカルパス研修会について

各専門施設で、今年度中に1回は院内研修会を行ってほしいと要望があった。希望があれば講師の派遣を行うことが報告された。

5. その他

専門施設は、年度内に1例はパスを適用してほしいと依頼があった。
今後、化学療法のパスも作成して行くこととなった。

6. 次回の開催について

次回は平成23年3月2日（水）に平成22年度第4回5大がん地域連携クリティカルパス運用ワーキングを行うことが承認された。